

## WPIAM - GCS 評価者の仕様

参照	評価すべき指定基準	行政チェック（申請者が提出したデータについて）	専門家の判断	必要なサポート材料	GCS アプリケーションズアセッサの要件
1.	申請者の <b>役割</b> は指定案に沿ったものとなっている。	必要とされる規定要素の範囲への適合性に基づいて、アライメントをチェックします。必要に応じて専門家のレビューを求める。	申請された指定のレベルの妥当性の裏付け確認を実施する。	様々な役割、様々な領域、様々な業界で様々な役割を担う応募者に適用されるであろう指定レベルのガイドライン。	GCS のスイートの理解と、指定された業界カテゴリにリンクされたアプリケーション。
2.	AM での一般的な経験が <b>最低でも数年ある</b> ことを満たしている方。	記載されている最小値を超えていることを確認する。	応募者の一般的な経験が AM の範囲内で考慮されていることを確認する。	「一般的な AM 経験」の資格範囲に関するガイドライン。	AM の範囲を理解する。
3.	資産ポートフォリオが <b>大きい</b> 。	記載されている最低基準を超えていることを確認するために提供された情報を確認する。	ポートフォリオが業界内で重要視されているかどうかの裏付けを確認する。	資産の複雑性、規模、価値、および/または重要性の最小基準に関するガイドライン - 必要に応じて、業界ごと。	ガイドラインの内容を理解し、業種別に適用できることを理解している。
4.	申請者が組織の事業に <b>参加している</b> 領域が大きい。	提出物にバリューステートメント（役割に関連する）が含まれていることを確認してください。	AM フレームワークの中で、申請者の参加が重要であると考えられることを確認する。	申請者が組織の事業に参加していることの意義を評価するための最低限の基準を示す指針。	特定の業種に適用される AM の理解。
5.	マルチディシプリン AM チームの <b>リーダー</b> 、または <b>ドメインエキスパート</b> の方を希望している。	申請者の組織内での立場や AM 内での役割が明確に記載されているか、提出書類に意欲があるかどうかを確認する。	業界での申請者の役割は、リーダーシップまたはドメインエキスパート (SME) のいずれかと考えられていることを確認する。	リーダーとドメインエキスパート (SME) のプロファイル定義を示すガイドラインと、適用される業界ごとのアプリケーションを示している。	業界カテゴリの AM ロールアプリケーションの知識。
6.	提出されたアーティファクトは、記載された <b>範囲</b> （個別にまたはまとめて）に対応している。	提出物にマッピングが含まれているかどうかを確認する。	産業界に適用されるように、各指定のための仕様書で要求されている範囲を人工物がカバーしていることを確認する。注：成熟した AM 環境にあるとは限らない。	ガイドラインでは、産業分類ごとに AMF を文書化するための典型的な方法を指摘している。	良い AM の実践の業界応用を理解する。  <b>CSAM と同等レベルの業界で AM の役割を果たした経験が 5 年以上あること。当初は、移行期間中に本人確認を行う必要がある。</b>
		申請者が組織固有の情報が <b>機密情報</b> であると指摘した場合、その場合は、準拠した代替情報が提供されていることを確認する（要求された形式と範囲をカバーしていることを確認する）。必要に応じて専門家のレビューを求める。	提案された代替アプローチが受け入れられるかどうか、提出されたアーティファクトが信頼性の高い評価に十分であると考えられるかどうかを確認する。	(i) 必要な書類カバーのコピー、養子縁組資料などの代替審査のための仕様書。(ii) 有効性を確認するためのレフェリー (iii) 面接の必要性を示すフラグ  面接仕様書の提供（2 名の面接官、アーティファクト提出のギャップ、通知、コスト、文書化、NDA の架け橋となるように事前に設定された質問をターゲットにしている。	プラス面接技術
7.	提出された成果物は、評価基準、目的、または要求事項に記載されているスキルの要求	無	工芸品の <b>品質</b> の妥当性を確認する（業界、組織の運用環境、実践の成熟度を考慮する）。	例えば、AMF は全体的かつ統合的でなければならない。AMF の範囲には、サービスのレベルと基準、将来の需要、ライフサイクル計画、実践改善などの評価が含まれていなければならない。	業界ごとに異なる役割とドメインに適用されるように。必要最小限の AM 経験と知識。

	されるデモンストレーションの範囲に対応している。				
8.	申請者のドメイン資格が、申請国の記載要件を満たしていること。	申請者のドメインが記載されており、有効であることを確認し、提出されたドメイン資格のレベルが認証レベルの記載要件を満たしていることを確認する。		業界ごとに、AM の範囲に含まれると認識されている代表的な領域の解釈を示すチェックリスト。  指定のためのベースライン資格要件の最低レベルの国の解釈（ブルーム分類法に基づくポジションペーパーの付属文書に沿って）。	国別資格の枠組みと産業界での適用に関する知識と理解。
	上記の代替ルートを許可：記載されている領域の知識が、職場またはコンピテンシーに基づいた研修や経験の評価に基づいて、記載されている要件を満たしていること。	代替（コンピテンシーベース）の方法に基づく知識および/または経験の評価を要求する申請書にフラグを付けます。  最低限の経験要件の追加については、ガイドの遵守状況を確認してください。  WPiAM 会員の評価に関する方針が  <ul style="list-style-type: none"> <li>• (i) 外部プロバイダーを通じて現在認証されていることを確認する：もしくは</li> <li>• (ii) 内部評価。提出されたデータ（人工物、特別審判報告書）の完全性を確認し、GCS アセッサーを参照する。</li> </ul> どちらの場合も 構造化されたインタビュー を手配する必要がある。	選択肢 1(1) の場合は、外部研修事業者の認定審査を定期的実施する。  選択肢(2) の場合は、申請者の職場での研修や経験が記載された要件に適合しているかどうかを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• WPiAM の標準ガイドライン 役割における職場経験の最低期間の追加要件（指定のために記載された最低期間の 50 % を追加）。</li> <li>• WPiAM 会員の評価戦術に関する方針（社内、社外、またはその両方）。</li> <li>• より詳細なレフェリー報告書の要件：指定された領域における個人の知識についてのコメント、申請者のアーティファクトごと の具体的な役割の確認、職場との関連性とアーティファクトの適用性の確認、組織の「AM プラクティス」の成熟度（文脈として）を示すこと。全審判は、公認の専門機関に登録されている必要があります。（国の解釈による）。</li> <li>• 提出された成果物の品質と完全性の評価に関するガイドライン。</li> <li>• ドメインナレッジに関する構造化インタビューのアレンジ。</li> </ul>	WPiAM 会員の評価戦術（研修提供者などの社内または第三者）の方針に依存します：  (i) 第三者による場合は、第三者が認定されていることを確認するための管理上のチェックのみが必要となります。 (ii) 社内にいる場合は、国の資格フレームワークに沿って、職場でのスキルやコンピテンシーに基づいた資格の評価のための概念の知識と理解が必要とされます（※下記参照）。 (iii) いずれの場合も、Structured Interview を実施する能力。
9.	AM の資格は出願国の記載要件を満たしていること。	様々な事前承認されたトレーニングコース（国の解釈に沿って、WPiAM によってサポートされ、記載されたブルームの分類学の要件の観点から資格のレベルの遵守を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国ごとに記載されたレベルのコースの認定（国ごとのブルーム分類法）。</li> <li>• AM サーティフィケート（CTAM）に必要な知識分野とそれに付随する試験認定プロセスの指定。</li> </ul>	国の資格枠組みに沿った学力、職場でのスキル、コンピテンシーに基づく資格の評価のための概念についての知識と理解。
10	申請者は、CAMA 試験に合格していること。	指定に応じて、CAMA（または許可された同等品）の有効性を確認する（CAMA cpd コンプライアンスに基づく再認証を含む）。	記載された要件に対する資格の同等性を評価し、WPiAM に勧告する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CAMA 試験との同等性のための WPiAM 規則（CSAM と CPAM 申請の場合） - CMRP などの可能性がある。</li> <li>• 国別対抗試験の同等性（または部分同等性）の推奨評価。</li> </ul>	同上
11.	申請内容については、受理された審判員の確認を受けていること。	リファレンスの存在を確認します。審判員の必要な資格を確認します。必要に応じて専門家のレビューを求めます。	審判員の受け入れ可能性の裏付け確認。	審判員の要件を示すガイドライン：審判は、公認の専門機関に登録されていること。申請書に記載され、レフェリーが認めるレフェリーの責任：組織における申請者の AM の役割、申請者の成果物作成への参加の性質と程度、成果物の職場への適用について、提出され	審判要件の認識と理解

				た情報が正確であることの確認（ない場合は、組織のAMの成熟度などの状況と理由）。	
12.	申請者は、倫理綱領（CoE）を遵守することを約束している。	WPIAM 会員の CoE を遵守することを申請書で正式にコミットしていることを確認する。		各 WPIAM 会員の倫理綱領の最低基準を記載したものの。	CoE の認知度
13.	以前に承認された認定者は、認定を維持するために最低限の継続的な専門能力開発（cpd）を行っている（最初の申請後に適用）。	CPD 期間を監視し、必要に応じて証明者からの迅速な応答を行う。任意の期間に提出された申請者の CPD に関する記述が、記載されている最低要件に準拠していることを確認する。コンプライアンスを遵守していない場合の問い合わせ。速やかにランダムな監査チェックを行い、前回の提出物の詳細なサポート文書を要求し、完全性をチェックする。必要に応じて、あるいはコンプライアンス違反の可能性がある場合には、解釈について専門家のサポートを求める。	コンプライアンスの解釈のための CPD 提出物のレビューを行うためのバックアップサポート（例外ベース）。	WPIAM の cpd スコアリングルールの詳細な解釈と、必要に応じて国別の解釈を行うためのガイドライン。  CPD の提出書類をサポートするために許容されるサポート証拠の種類に関するガイドライン。	特定の国や業界での CPD 要件の認識と解釈、調整。

## \* アセスメントコンセプト：

- エビデンス：
  - 直接的な証拠 - 職場でのパフォーマンスの観察など
  - 間接的な証拠 - 正式なテストなど
  - 補足証拠 - 雇用主からの紹介状などエビデンスは、信頼性と妥当性、性質にまで確認。
  
- 評価の原則：
  - 妥当性 - 正当な評価
    - 指定要件に対する評価は、有能なパフォーマンスに不可欠なスキルと知識の範囲をカバーしている。
    - 知識と技能の評価は、それらの実践的な適用と統合されている。
    - 評価は、申請者が他の類似した状況でこれらのスキルや知識を発揮できることを示す証拠に基づいて行われている。
    - 能力の判断は、指定要件に沿った申請者のパフォーマンスの証拠に基づいている。
  - 柔軟性 - コンピテンシーをどのように、またはどこで取得したかに関係なく、また、状況や評価対象、学習者の個々のニーズに応じて適切に評価することができる。
  - 信頼性 - 証拠の一貫した解釈を可能にする評価。結果は評価者に関係なく比較可能である。
  - 公平性 - 申請者のニーズに焦点を当て、必要に応じて合理的な調整を行う必要がある（すなわち、評価できない障壁を取り除くこと）。
  
- エビデンスの規則：
  - 有効性
  - 真正性
  - 通貨
  - 1回だけでなくある期間、複数回、期間内での充足度
  
- 評価方法：
  - 直接観察
  - 質問
  - シミュレーション活動
  - 第三者からのフィードバック
  - ポートフォリオと商品の見直し
  
- 考慮に入れる必要があること：
  - コンテンツの正確性
  - 職場との関連性
  - 言葉の適切性